

施策評価（令和6年度）

戦略2 農林水産戦略			
目指す姿4 農山漁村の活性化			
幹事部局名	農林水産部	担当課名	農山村振興課
評価者	農林水産部長	評価確定日	令和6年7月31日

1 施策（目指す姿）のねらい（施策の目的）

中山間地域ならではの農業・農村ビジネスの振興や、半農半Xなど新たな兼業スタイルの普及により、関係人口や定住人口の拡大が進むなど、多様な人材が活躍する農山漁村の実現を目指します。

2 施策の状況

2-1 成果指標の状況及び定量的評価

	施策の方向性、指標名(単位)	年度	2019 (R元)	2020 (R2)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	直近の 達成率	配点	備考
①	【施策の方向性①】 中山間地域のブランド特産物数 (累積)(件)	目標			25	28	31	34	82.1%	2	
	実績		22	22	22	23					
	出典:県調べ	達成率			88.0%	82.1%					
②	【施策の方向性②】 新たな農村ビジネスの取組件数 (累積)(件)	目標			3	6	9	12	100.0%	4	
	実績		—	—	4	6					
	出典:県調べ	達成率			133.3%	100.0%					
③	【施策の方向性②】 農村関係人口(人)	目標			8,800	9,600	10,400	11,200	124.7%	4	
	実績		9,887	6,518	10,448	11,968					
	出典:県調べ	達成率			118.7%	124.7%					
④	【施策の方向性③】 農村地域づくり活動サポート人材 の育成数(累積)(人)	目標			10	20	30	40	125.0%	4	
	実績		—	—	17	25					
	出典:県調べ	達成率			170.0%	125.0%					
⑤	【施策の方向性④】 農地保全活動面積(ha)	目標			102,900	103,400	103,900	104,400	99.9%	3	
	実績		102,297	101,908	103,256	103,273					
	出典:県調べ	達成率			100.3%	99.9%					

※ 指標の判定基準

4点: 達成率 $\geq$ 100% 3点: 100% $>$ 達成率 $\geq$ 90% 2点: 90% $>$ 達成率 $\geq$ 80%
 1点: 80% $>$ 達成率 $\geq$ 70% 0点: 70% $>$ 達成率 n: 実績値が未判明

定量的評価結果	計算式
3.40 (b相当)	$ \begin{array}{l} 4 \text{ 点} \times 3 \text{ 個} = 12 \text{ 点} \qquad 1 \text{ 点} \times 0 \text{ 個} = 0 \text{ 点} \\ 3 \text{ 点} \times 1 \text{ 個} = 3 \text{ 点} \qquad 0 \text{ 点} \times 0 \text{ 個} = 0 \text{ 点} \\ 2 \text{ 点} \times 1 \text{ 個} = 2 \text{ 点} \\ \hline \text{合計} \quad 17 \text{ 点} \div 5 \text{ 個 (判明済み指標)} = 3.40 \end{array} $

※ 成果指標において実績値が未判明となった指標がある場合には、それを除いて平均点を算出する。

※ 定量的評価の判定基準

a相当: 平均点が3.6点以上 b相当: 平均点が3.2点以上3.6点未満 c相当: 平均点が2.8点以上3.2点未満
 d相当: 平均点が2.4点以上2.8点未満 e相当: 平均点が2.4点未満

2-3 主な取組状況とその成果

【施策の方向性① 中山間地域における特色ある農業の振興】

- ・ 地域特産物のブランド化など地域資源を生かした「しごと」を軸として地域活性化を目指すプラン（元気な農山村創造プラン）の策定を支援した（2地域）。
- ・ 農山村地域の所得向上に向け、地元農産物を用いた商品やパッケージデザインの試作等の取組を総合的に支援し、1地域で商品開発を行った。

【施策の方向性② 地域資源を生かした多様な農村ビジネスの促進】

- ・ 地域特産物の加工や地域交流を行うことができる拠点の整備に取り組む3地域を支援した。
- ・ 農家民宿の起業希望者に対し、農泊ビジネスの起業実践研修を実施したほか（5人）、農家民宿の開業に必要な設備導入等の支援を行った（2人）。
- ・ 県内各地における食や伝統文化等を生かした都市農村交流活動により、農村関係人口は11,968人まで増加している。

【施策の方向性③ 新たな兼業スタイルによる定住の促進】

- ・ 新たな兼業スタイル「半農半X」の普及による地域活性化に向け、鹿角市ほか3市で「半農半X」の可能性調査を実施し、参加者が本業を生かした地域貢献活動や農業を通じて地域との関わりを深めた（24人参加）。その後1名が地域おこし協力隊として移住するなど、関係人口の拡大につながった。
- ・ 農山漁村地域を支える人材や組織を育成するため「農山漁村プロデューサー養成講座AKITA RISE」を実施し（入門編：全2回延べ150人、実践編：全5回8人）、地域で活躍する人材の裾野拡大とネットワークづくりを進めた（育成した農村地域づくり活動サポート人材：8人）。

【施策の方向性④ 多面的機能を有する里地里山の保全】

- ・ 多面的機能支払交付金及び中山間地域等直接支払交付金に取り組む地域において、草刈りや水路の泥上げ等の共同活動を通じて農地が保全された（103,273ha）。
- ・ 遊休農地再生利用モデル事業により遊休農地の再生を支援した結果、農地の利用につながった（1市、2.3ha）。

3 総合評価と評価理由

総合評価	評価理由
b	成果指標の達成率を基にした定量的評価は3.40で「b相当」であることから、総合評価は「b」とする。
	【定性的評価として考慮した点】 ・

4 県民意識調査の結果

質問文	農家民宿や農家レストランなど地域資源を生かした多様な農村ビジネスが増え、農山漁村が活性化している。					
満足度	調査年度	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	前年度比
満足度	肯定的意見	12.7%	10.6%			△2.1
	十分 (5点)	1.1%	1.2%			+0.1
	おおむね十分 (4点)	11.6%	9.4%			△2.2
	ふつう (3点)	38.6%	27.4%			△11.2
	否定的意見	33.2%	46.3%			+13.1
	やや不十分 (2点)	19.9%	28.3%			+8.4
	不十分 (1点)	13.3%	18.0%			+4.7
	わからない・無回答	15.4%	15.8%			+0.4
	平均点	2.61	2.38			△0.23

※端数処理の関係で満足度の割合の合計は100%にならないものもある。

5 主な課題と今後の対応方針

施策の方向性	課題	今後の対応方針
①	○ 地域特産物のブランド化に当たり、地域関係者の合意形成が難しいほか、生産から加工・販売までの各段階において、新たな加工技術の習得や販路開拓等、様々な課題が生じ支障となっている。 ○ 地理的条件が不利な中山間地域では、えだまめやねぎのような大面積・大ロットでの取組が困難なところが見られる。	○ 地域を支える人材・組織づくりから地域活性化を目指す取組までを総合的に支援するとともに、必要に応じて課題解決に向けたアドバイザーを派遣するなど、きめ細かなサポートを実施する。 ○ 中山間地域の生産者の所得向上と雇用の確保を図るため、取り組みやすい品目の選定や現地実証等を行い、小ロットでも収益性の高い品目の生産拡大等に向けた取組を支援する。
②	○ 多種多様な地域資源を生かし、地域を活性化させることのできる人材・組織及び活動が不足している。	○ 地域づくり活動やビジネス創出の主体となる人材や組織の育成を進め、具体的なビジネス実践につなげる。
③	○ 「半農半X」などの取組による農業従事者や関係人口等の増加が求められている。	○ 「半農半X」の実証調査地域を拡大するとともに、これまでの成果の分析、ノウハウ等の共有により、取組の機運を高め普及促進を図る。
④	○ 過疎化・高齢化や人材不足に伴い、日本型直接支払制度の取組継続が困難な組織や協定が見受けられるほか、再生困難な荒廃農地が増加している。	○ 5年間の活動の終期を迎える組織や、特に継続が危ぶまれる組織について、事務作業の外部委託や広域化を進める。また、条件不利で農地の有効利用が難しい地域においては、粗放的な土地利用を行うなど、地域の実情に応じた適切な農地利用と維持・保全を推進する。

6 政策評価委員会の意見

自己評価「b」をもって妥当とする。